自然再生実地研修（白山地区：福井県越前市）活動報告

越前市の白山地区をフィールドに、現場で自然再生の技術を学ぶ「自然再生実地研修」を、（一財）日本緑化センターとの共催により実施しました。

１　日時・場所

（１）事前講義

日時：平成２８年７月８日（金）１３：００～１７：００

場所：ホテルクラウンヒルズ武生

（２）自然環境観察、自然再生作業

日時：平成２８年７月　９日（土）９：００～１６：３０

１０日（日）９：００～１４：００

場所：白山地区（越前市）

２　講師等

コーディネーター

養父志乃夫（里山里海湖研究所アドバイザー、和歌山大学教授）

講師

日和佳政（越前市農政課）

藤長裕平（越前市農政課）

長谷川巌（福井県両性爬虫類研究会）

３　参加者

全国の自然再生士、県内の自然再生に係る知識や技術の向上意欲の高い方　２３名

※自然再生士は一般財団法人日本緑化センターが認定している民間資格

４　主催

福井県里山里海湖研究所、一般財団法人日本緑化センター

５　内容

（１）事前講義

①自然再生技術の実務（養父先生）

自然再生工事と土木・造園工事との違い、生き物や環境に配慮した自然再生工事の方法やその注意点などについて自身の体験も含めて参加者にわかりやすく説明していただきました。

②白山・坂口地区の自然環境

まず、白山・坂口地区の土壌や気候の特徴、植生、特有の希少種を紹介し、その後、白山・坂口地区の人口減少や外来生物の侵入など今後の問題について講義をしていただきました。講義では自身の白山地区での生活も踏まえて話をしていただき、白山地区の自然環境が良くわかる講義となりました。

③白山・坂口地区の自然再生活動

休耕田を利用したビオトープの整備や魚道を設置することにより、どのような生き物がどの程度増えたのか、自身で調査された実際のデータを使用して説明していただきました。また、他にもドジョウの養殖や外来生物の駆除といった白山・坂口の生物多様性を守り、コウノトリを呼び戻す自然再生活動について紹介していただきました。

（２）白山地区の自然環境観察

自然再生作業を行う３か所について歩きながら植生や生き物を観察しました。退避溝の見学では実際に講師の日和氏が網を使い、退避溝にどのような生き物が生息しているのかを参加者に見せてくれました。

（３）自然再生作業

①安全講習

参加者は作業を始める前に養父先生から草刈機・大鎌の使い方を学びました。養父先生は草刈機・大鎌を使う上で自身の安全や生き物を傷つけないようにするための注意点を説明し、使い慣れていない方を中心に草刈機・大鎌の指導を受けました。

②休耕田のビオトープ整備作業

鎌や草刈機を使用し、「ガマ」という草を刈りこんでいきます。その後、剣スコップを使用し、刈り込まれたガマを根ごと抜き、休耕田をビオトープとして維持管理していきます。

③退避溝の整備作業

退避溝は田んぼの中干し時期に田んぼに生息する魚を避難させるための重要な水路です。今回は波浪浸食により崩れた退避溝の畦を修繕します。麻袋に土をつめ、その土のうを畦に埋め込み、修繕していきます。この修繕は３年ごとに必要になってくる作業です。

④アベサンショウウオ産卵場所の修繕作業

産卵場所を修繕するため、畦づくりを行いました。畦をしっかり作ることにより水深を確保することができ、適した産卵場所になります。かけやで杭を打ち、丸太を固定し、最後に泥上げをして畦の完成となります。